

令和4年11月22日

PTA 会員の皆様

本部役員会

PTA 活動集約の検討状況

日頃より、PTA 活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

PTA 本部では、9 月にご協力いただきましたアンケートをもとに、今後の PTA のあり方について、さらに検討を進めてまいりました。活動集約の目的や、皆さまからいただいたご意見に対する本部の検討状況について、下記のとおりまとめましたのでご報告いたします。

また、今回提案させて頂いた内容について、規約改正を伴う臨時総会を書面にて行う予定であります。開催の際は、書面表決書提出のご協力をよろしくお願い申し上げます。

記

1. 集約の目的

唐沢小学校 PTA は、家庭や学校や地域が相互に理解を深め、児童の健全な成長を図る目的で設立されています。

そして、「子どもたちのため」という視点を前提に、各委員会をはじめとして様々な活動を行ってきました。

一方で、特に近年は「子どもたちのため」という視点が置き去りになり、「いかにして前年までと同様の活動を続けるか」ということが、活動の際に目的になっていると感じられる場面が多くありました。

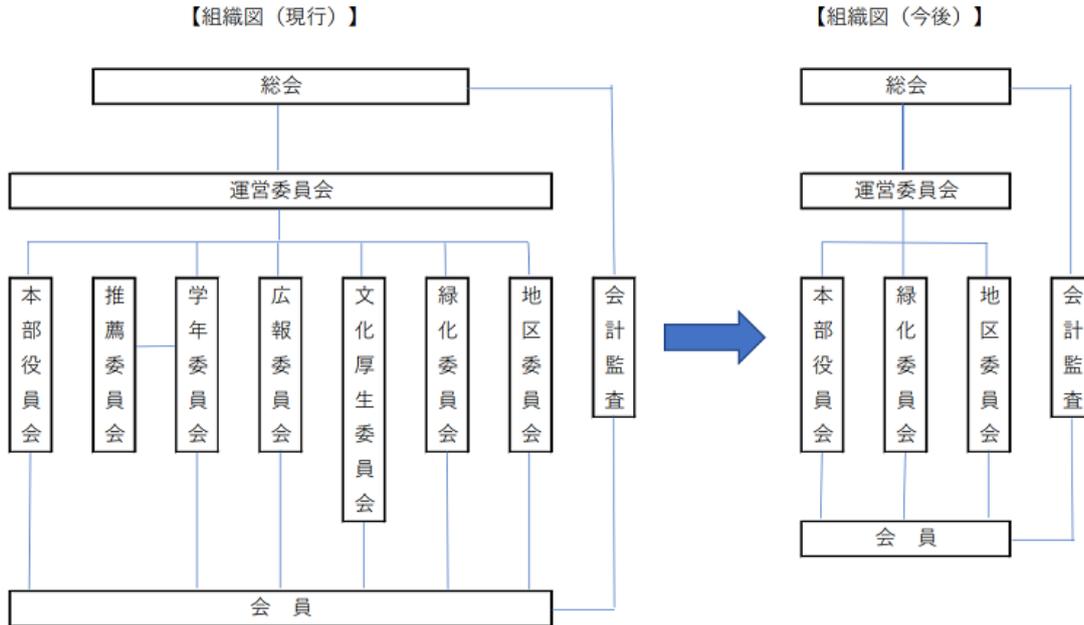
そこで、今年度の5月と9月にアンケートにご協力をいただきました。回答からは、仕事や育児に限らず様々な事情を抱える家庭が多くあること、特に本部役員やクラス役員の負担が大きいという意見が多くありました。

現在の活動体制を無理なく維持していくための方法として、アンケートで具体的に意見のあった「ボランティア制」について、改めて検討をしました。しかし、誰がボランティアを募り活動を取りまとめるのか、活動を管理できるのかなどについて、解決方法を見出すことができませんでした。

現在の委員会や活動はそれぞれに役割を果たしていますが、今一度「子どもたちのため」という視点を中心に据えて活動をすること、家庭の事情を踏まえた持続可能な組織になることを目的に、現在の活動や体制を集約・整理するという方向性に至りました。具体的には、学校側の意見も踏まえながら「子どもたちや学校生活のために不可欠な活動」という観点から、活動内容を絞りました。併せて、なかなか募集が集まらない本部役員も含め一人一人の負担を軽減し、会員全員が協力して活動する仕組みに整えることを目指しました。

そして、その結果として、誰もが無理なくプライベートと PTA とを両立できる、子どもたちのために力を注ぎたいという人の応援ができる組織になれているといいなと思っています。

2. 集約の方向性



- (1) 組織を上図のとおり改編する。
- (2) 緑化委員の人数を各クラス1名から4名に増やす。(一人あたりの仕事量の平準化)
- (3) 現在、本部役員会・緑化委員会・地区委員会以外の委員会が行っている活動は、会員から自発的に活動の提案がある場合は、会員自身が実行委員を募り、単年度単位で活動ができる。
- (4) これまでに無かった新たな活動についても、(3)と同様に活動ができる。
- (5) 現在の活動のうち、花壇の管理(緑化委員会)、登下校見守り・通学班編成(地区委員会)は、学校側の意見も踏まえて「子どもたちや学校生活のために不可欠な活動」として、継続する。
- (6) 活動集約に伴うPTA会費の減額は、今回は行わない。ただし、引き続きの検討事項とし、集約後の活動状況を踏まえて検討する。

3. 9月のアンケートの主な意見と検討状況

① 学年委員会について

・ベルマーク回収は行わない

賛成 162(74.0%) 反対 46(21.0%) 未回答 11(5.0%)

・アルミ缶回収は行わない

賛成 177(80.8%) 反対 30(13.7%) 未回答 12(5.5%)

・推薦活動は本部が行う

賛成 201(91.8%) 反対 13(5.9%) 未回答 5(2.3%)

【検討状況】

・ベルマークやアルミ缶回収による収益は、会費のなかでやりくりできるのか。

→ベルマークの回収は年間4万点ほどで、教育環境設備に還元しています。

アルミ缶回収の収益は年間3万円ほどで、周年行事の積立金の一部に充てています。

集約される活動の予算を、教育環境設備や周年行事の積立金に充てたいと考えています。

また、回収したい場合は、会員自身が実行委員を募り、単年度単位で回収できる仕組みも検討しています。

・推薦活動を本部役員だけで行うのは大変ではないか。

→本部役員も含め一人一人の負担を軽減し、会員全員が協力して活動できることを目指しています。

今回の集約により本部役員会の活動も整理されると考えています。

本部役員の活動に意欲を持てるような仕組みも検討しています。

②広報委員会について

・広報紙は発行しない

賛成 173(79.0%) 反対 35(16.0%) 未回答 11(5.0%)

【検討状況】

・先生の紹介を毎年楽しみにしているので、何か別の方法で紹介はできないか。

→先生の紹介は、顔と名前がわかりいつもとは違う一面について知ることでもできるということで、好評の意見が多くありました。一方で、パソコンや編集のスキルが必要であり、委員の中でも負担の偏りが出やすいという意見もありました。検討した結果「子どもたちや学校生活のために不可欠な活動か」という観点から、発行しない方向で検討しています。

また、発行したい場合は、会員自身が実行委員を募り、単年度単位で発行できる仕組みも検討しています。

なお、子どもたちの様子については、唐沢小学校ホームページやお便りからも知ることができます。

③文化厚生委員会について

・家庭教育学級は開催しない

賛成 202(92.2%) 反対 10(4.6%) 未回答 7(3.2%)

【検討状況】

・給食試食会は参加希望される方もいるのではないか。

→給食試食会について関心がある方からの意見もありました。検討した結果「子どもたちや学校生活のために不可欠な活動か」という観点から、開催しない方向で検討しています。

また、開催したい場合は、会員自身が実行委員を募り、単年度単位で開催できる仕組みも検討しています。

なお、コロナ禍でもあり、感染防止の観点から給食試食会は3年間実施されていない状況です。

④緑化委員会について

・各クラス4名に増員し、植え替えの作業負担を減らす

賛成 202(92.2%) 反対 12(5.5%) 未回答 5(2.3%)

・水やりは児童が行う

賛成 212(96.8%) 反対 7(3.2%) 未回答 0(0.0%)

- ・各クラス4名に増員し、除草の作業負担を減らす

賛成 201(91.8%) 反対 13(5.9%) 未回答 5(2.3%)

【検討状況】

- ・植え替えもPTA会費から業者に依頼できないか。

→日頃の水やりなどは園芸委員会の児童が行うことができますが、花壇を荒廃させずに維持するためには、植え替えや手入れなどを大人の手で行う必要があると考えています。花壇の管理の手段として「委託」という方法は合理的ですが、比較的誰でも参加しやすい活動であり、学校や子ども達、保護者同士が関わられる貴重な機会となることから、保護者が行う活動として残したいと考えています。また、一人当たりの活動量の平準化を図るために、委員の上限人数を増やすことを検討しています。

- ・各クラス4名、全体で48名だと収集がつかなくなり、委員長が負担になるのではないか。

→本部役員会では以下のようなシミュレーションをしました。

(あくまでも参考であり、実際の活動内容を拘束することは想定していません。)

- ・クラスで選出された4名のうち1名をリーダー(さくら学級以外)とする。
- ・リーダー12名(2クラス×6学年)の中から委員長、副委員長、会計を選出する。
- ・植え替えのレイアウトや除草のスケジュールなどは、リーダーの中で検討する。
- ・年に2回植え替えるとした場合、「咲き終わった花を抜き、土おこしや肥料しきこみ作業をする日」と「新しい花を植える作業の日」に分けて、それぞれ12~14名ずつ作業する。

令和5年度は、各クラス4名を募集し、実際に運用して人の手が余るようであれば、令和6年度以降に人数を見直すなど、集約後の活動状況を踏まえながら、引き続き検討していきたいと考えています。

⑤地区委員会について

- ・地区委員の活動は継続する

賛成 183(83.6%) 反対 22(10.0%) 未回答 14(6.4%)

【検討状況】

- ・地区委員の活動内容も見直すことはできないか。

→「PTAの地区委員会」と「地域(自治会や育成会)の地区委員」とは別の組織です。そのため本来は活動も個別に行われるものです。ですが、実態としては「PTA地区委員会の地区委員」が「地域の地区委員」と結びついて活動している慣習が多くあるようです。PTA地区委員会については、長年積み重ねられている学校や地域との関係もあり、本部役員会として活動や体制の集約を進める場合には、地域との相当の調整を要することが分かりました。今回のアンケートでいただいたご意見は、PTA地区委員会を介して地域の地区委員様と共有等し、今後の両活動の参考にしていただきたいと思います。

登下校の安全確保や通学班編成は「子どもたちや学校生活のために不可欠な活動」であり、「PTA地区委員会」の活動として、継続していきたいと考えています。

⑥会費について

- ・会費を2400円から2000円に減額する

賛成 208(95.0%) 反対 5(2.3%) 未回答 6(2.7%)

【検討状況】

・子どもの数が減っているが大丈夫なのか。一度下げると上げるのは大変なので、急がなくてもいいのでは。
→年々子どもの数が減り、今後会費による収入が減少する可能性があります。

活動集約に伴う会費の減額は理に適っていますが、子どもの数が減ること・ベルマークやアルミ缶回収の収益から支出している部分に会費を充てる可能性があることを改めて考慮し、今回のタイミングでの減額は見送り、集約後の活動状況を踏まえて、改めて検討したいと考えています。

4. 今後の予定

令和5年1月 規約改正の決議(臨時総会)・結果報告

令和5年2月～ 現体制と新体制の並行運用開始

令和5年5月～ 新体制での活動開始(通常総会)